

# 湖風会報

滋賀県立大学統合同窓会報 第1号

# 2500

滋賀県立大学同窓会会報誌 第9号

2007年10月15日発行  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500  
滋賀県立大学交流センター内  
湖風会  
Tel:0749-28-4400  
Fax:0749-28-4400  
http://www.usp2500.com/  
発行責任者 種橋清一

## 『湖風会』が誕生しました

滋賀県立大学とその前身であった滋賀県立短期大学の卒業生にて構成されている各単位同窓会組織の統合について双方の話し合いがまとまり平成18年11月11日、統合同窓会の設立総会が開催され、「湖風会」として誕生しました。

この同窓会統合は長年にわたる懸案であり関心度も高く、当日は総会出席者数約300名となり大学学長、滋賀県内関係官庁から来賓を迎えて盛大に総会を進めることが出来ました。総会では「湖風会」としてのこれからの事業・予算計画（案）、役員選出など議事が計られこれを骨子に具体化への検討に入ることになりました。

『湖風会』はこの統合によって、同窓会員数では一挙に二万五千五十名の卒業先輩を有する団体として活動することになりました。同窓会の組織は多くの先輩から今、卒業される皆さんまで長期間が繋がった先輩と後輩までの縦の関係であり、広く社会の現場で活躍される卒業生との交流は非常に有意義なものです。同窓会活動への参加をお待ちしています。

## 湖風会会長挨拶

湖風会会員の皆様には、愈々ご健で活躍のことと心からお慶び申し上げます。常日頃は湖風会の発展に格段のご配慮を頂き、厚くお礼と感謝を申し上げます。

昨年（平成18年）11月11日、本学の学祭、湖風祭の開催に併せて、本会は「湖風会」として力強く誕生いたしました。今回、会報第1号と名付け、この発刊にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、設立総会開会日の模様は、概略として、彦根市八坂町 滋賀県立大学内 A2・202大講義室を会場に、約300名と予想外のご参会のもと、来賓の方々御祝辞、並びに前学長 西川幸治先生の「近江に見る文化的景観」と題した講演を頂き、盛大に挙行することができました。大いに盛り上がりました。同窓親和の意欲深い1日を送らせていただくことができました。改めて深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

昨年の総会の席上で申し上げました事柄を、念のため反復掲載いたしますと、

下記の通りでございます。

本学の沿革につきましては、今をさかのぼる63年、いわゆる63星霜、古くは昭和19年の戦時特別措置法により、当時世間で名代の国立彦根高等商業学校、俗に彦根高商が廃止され、工業が最優先で、国立彦根工業専門学校に変わりました。その後の変遷で、県立彦根工業専門学校となり、同時期に県立彦根女子専門学校ができて、その後の学制改革で、草津の農業講習所を含め、滋賀県立短期大学となり、さらに改組移行して、現在の滋賀県立大学となったのであります。

一方、眼を転じますと、ご承知の通り、今日地球全体といたしまして、環境問題が大きく論じられております。本学といえども、これら自然環境の保全等につきましても、鋭意研究されているところであり、琵琶湖とともに生活しておる私達にとりまして、あまり身近で、ついなおざりになりがちですが、今更ながらその大切さを痛感しておる昨今でございます。なお、時代の趨勢により、本学にも独立法人化という未経験の問題が

生じ、関係者各位により、種々論議されており、よりよい方向に進むよう努力されているところであります。

以上が総会開催時の模様でございます。その後、新しいニュースとして、来春、電子システム工学科が現キャンパスの南東部に建設の運びに至ったとのことであり、技術研究の殿堂として、立派に完成されますことを心からお祈り申し上げます。

わが同窓会も、こうした母校の事業に對して、及ばずながら協力したいと思っております。会員の皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

ここに、初回の会報の発刊に当たり、母校のますますの隆昌と、本会の永久の発展、会員の方々のご健勝、ご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。



種橋清一

Tanehashi Seiichi

## 『湖風会』設立の経過・沿革

滋賀県の人材育成、地方文化・産業振興の高等教育の流れは戦前に遡るが、戦後それらは大学教育として県立短大に引継がれた（P2沿革図参照）。滋賀県立短大は彦根と草津に学舎が散在する工業・農業・家政・看護の4部、10学科を擁する全国最大の総合短大に発展した。しかし開学から時を経ずして、農業部、工業部に廃学問題が起き、卒業生や関係団体の熱心な存続運動の展開、さらに短大の整備充実と4年制移行の要請運動が長年続けられた。ようやく時代情勢に応じて短大が改組・転換され、彦根に滋賀県立大学が生れた（H. 7）。

短大の同窓会は、工業部は「彦根工業会」、農業部は「農業部同窓会」、家政部は「芹翠会」、看護部は「湖畔の会」として夫々独自活動をしてきたが、県立大付属短大として存続する看護部を除いて、他の3同窓会は閉科・母校閉鎖に直面する。

工業、農業、家政の短大3同窓会は県立大学設置の準備段階から、県に對して「短大の成果を発展させる大学づくり」を期待し、「短大を母体とする改組・転換（短大の4年制化）」を確認し、「同窓会の組織継承」の意向を伝え、同窓会への理解と支援を求めてきた。県知事には「県立大学のルーツの明確化、学籍簿の保管、同窓組織一体化への配慮」等を申入れ、同窓組織は「短大と県大は先輩・後輩の関係と理解する」と回答した。

短大の卒業生は「漸くわれわれの念願が通った」と、草津でも彦根でも閉科記念式典を開き、新しい母校「県立大学」の誕生を祝福した（H. 8）。

県立大学発足後は学長、大学当局に「同窓会一体化の願い」を伝え、その条件づくりへの配慮を要望した。大学への陳情、交渉を重ねるなかで、短大3同窓会の連絡機関旧・湖風会が結成され、交渉の末、同窓会事務所を交流センター内に置くことになった。（H. 10）

この間の同窓会合併問題に対する学長・事務局長の対応は、概ね「時期尚早、県立大学同窓会が出来てから」であった。県立大学同窓会が発足した平成11年に県大同窓会と旧・湖風会の役員が初会合した。平成12年には看護部の「湖畔の会」が参加して、以後5同窓会の合併協議が継続された。

当初は県大同窓会が会の立上げ・新運営に手一杯の状況下であり、「短大を母体とする改組・転換」と言う県大設置の経過背景や「同窓会」そのものについての意識、理解、認識に若干のずれもあったが、新設の大学が「短大の諸業績の発展継承が期待された大学」であり、短大とは無縁の存在でないこと、また時代は移っても、母校との絆を保ちたい気持ち、同窓の学友と共に青春をすごした学園という



共通性や連続性から広く親睦、交流をはかりたい……といった心情。さらに、将来の共通の「同窓会館」建設、就職・求職の支援協力関係、他大学同窓会の調査結果など……いろいろ対話を続け、会合を重ねることに相互理解がすすんだ。

合併の組織体制は、最初は「連合同窓会」が合意され（H. 12）、全体同窓会の名称が「湖風会」に決まった（H. 15）。その後、合併協議は次第に統一組織へ向けて意見が進展し、大学当局も支援態勢に入り、漸く統合同窓会「湖風会」設立の合意に至った（H. 17）。

それ以降、発足準備会で会則の検討、事務所運営、設立総会開催などを協議し、「湖風会」設立総会の運びとなった（H. 18）。

## 農業部同窓会

### 会長挨拶

念願の県立大学と県立短大の同窓会の統合が実現し、昨年11月「湖風会」が誕生しました。短大の閉学から10年の月日を経ての組織合併だけに、感慨と喜びひとしおです。

「湖風会」設立総会は、日程を県立大の湖風祭（大学祭）に合せての急展開で、参加連絡は各科各回クラス委員、役員、近在会員にとどめ、全会員にお知らせ出来なかったこと、ご容赦願います。

農業部同窓会は44回の卒業（S. 28）（H. 8）会員3700名を擁します。最後の事業は盛會裡に運んだ農業部の閉科記念集會（H. 8. 3/16）で今も印象鮮やかです。顧みるに半世紀に及ぶ

同窓会の歴史は、母校の廃学克服と4年制実現の運動の連続でした。母校と卒業生のきずなは確固たるものでした。懐かしい草津学舎の閉鎖に際し、記念碑建立の要望が広がり、上野氏（9回卒）の尽力もあって、前庭にあつた大きな自然石を利用して跡地に設置されました。碑文は「この地を学舎として46年間、学生、教職員約4000名が教育・研究にいそしみ農業及び地域文化の振興と発展に寄与した」さらに「農業部の諸業績は県立大に継承され、発展される」と銘記されています。我われ同窓生にとつて、閉学は残念でしたが「母校が生れ変わった」ことに納得し、満足したいです。今後の県立大学に期待し、「湖風会」の着実な発展を心から願っているところです。



東 富夫

Azuma Tomio

## 活動報告

1996年の3月は農業部3学科の閉学記念集會、最後の44回卒業式、同窓会誌12号発行、そして草津学舎の閉鎖……と慌しく過ぎました。教職員の方々の多くは県立大学環境科学部と付属実験農場に転属されて活躍し、同窓会は事務局を彦根に移し、工業、家政、看護部同窓会と歩調を合わせて県立大同窓会との一体化を図り、10年の歳月を重ねようやく「湖風会」の成立を見たところです。この間、会は草津学舎跡地に記念碑の設立を県に要望し、グランド南端の角に建立、碑文は会長の挨拶の通りです。

統合同窓会「湖風会」の設立総会は参加者が制約されましたが、懐かしの面々、旧友交流の場になりました。退職された恩師を囲む会など種々の卒業生の集いが随時、随所で開かれ、その盛會を願う所です。卒業生名簿については個人情報保護から「湖風会」で統一管理する計画ですが、農業部その後の名簿修正・整理を

急いでいます。名簿資料整備に会員皆さんのクラス会情報などお寄せ下さい。



旧農業部学舎

## 芹翠会

### 会長挨拶

湖風会の皆様お元気ですか。今年の夏は異常な暑さで、体温以上の地域もあり体調をくずさないように気をつけての毎日でした。皆様にはお元気でご活躍なされている由、何よりとお喜び申し上げます。

さて、昭和25年4月、昭和天皇が全国をご巡幸され彦根で歓迎行事が行われ滋賀県立短期大学長 川村多実二学長と学生代表として私が一員として参加いたしました。光栄に浴したものです。

それ以来46年、学校の環境整備が進められ一時は、全国最大規模の短期大学の充実を図る一方で、それぞれの幅広い努力の結果、卒業生も1万6千人を擁しましたが、近年高等教育充実の努力の結果、かくして短期大学が新大学に生まれかわり、46年の歴史と併せ、短大オープンより57年、県立大学オープンから12年、今年には彦根城築城400年、先人の努力に思いをはせて、もったいない主義を心に今後益々湖風会の発展を祈念いたします。

阿閉 良衛

Atsui Ryoue

## 活動報告

家政部同窓会 芹翠会、は、昭和27年、第1回卒業生が出てから2、3年後に、第2回文科卒業生の、寺村久司氏を会長に「芹翠会」として発足した。短大の事務機構が改変された昭和46年までは、各部にそれぞれ事務室があり、その中の補導課に同窓会事務局があり、職員ならびに補導担当の教員が、同窓会の面倒を見てくださった。昭和41年、短期大学家政部の前身である滋賀県立女子専門学校同窓会「翠汀会」より、田中登美子会長を代表として、「芹翠会」への合併申し入れがあり、芹翠会はこれを受け入れ、昭和42年8月、彦根市民会館にて合併記念同窓会総会が開かれ、名前を「芹翠会」と改め、新しい同窓会が発足した。会長には、田中登美子氏が就任された。昭和46年以降の同窓会は、卒業生の学内幹事により運営された。芹翠会には女子が多く、結婚、転居などにより、日に日に住所が変わり、会員の消息をつかむ事が難しく、組織だった運営ができにくく、また総会も殆ど開かれていない。主だった事業として、生活実習館（平屋建四間）を建て、大学のクラブ活動に貢献したこと、名簿が4、5回発行されたこと、特に平成8年には、短大各学科閉科に伴い、名簿と会報が発行された。現在の芹翠会の会長は、阿閉良衛氏（1回文科卒）である。

平成18年に「湖風会」として発足したお知らせを芹翠会全員に発送したが、宛先不明で1100通が戻り、住所確認の返事をいただいたのは2300名である。会員6500名中半数に近い会員の住所が確認されていない。



旧家政部学舎

「県立短期大学・滋賀県立大学・同窓会の関連と沿革」

## 彦根工業会 理事長挨拶

同窓生の皆さまには益々ご清祥にてお過ごしのことと存じます。

平素から同窓会の運営・活動にご理解とご協力をいただきまして有難うございます。ご承知のように私達の母校滋賀県立短期大学は、約50年間の長き亘り多くの優秀な卒業生を社会に輩出し、各業界にて活躍されていますが、大学の組織改編によって閉学し、滋賀県立大学に継承されました。工業部の卒業生で構成する「彦根工業会」は会員数5100名を有する同窓会であり、夫々の時代の歴史を紡いでくれた先輩と後輩へと繋がれていくのが「同窓会」の本当の姿だと考え、平成17年10月 総会を開催、活動する同窓会を目指して新しい執行部が選出され、私は理事長をお引受けしました。建築、機械、化学の各学科を代表する役員で構成された新理事会は、会員の皆さま方と互いの情報を「提供・共有」する「活動する同窓会」でありたいと、運営と活動の機能として会員情報、広報、総務の3の委員会を立上げ、その活動は会員、並びに評議員の方々のご協力を得て作業は順調に進んでいます。

さて、平成18年11月11日 長年の懸案であった滋賀県立大学同窓会と短期大学各科同窓会が統合されました。この統合同窓会「湖風会」の誕生は、我々のルーツは親があつて私たちが持っているように、我々は先輩として私たちが持っている財産を同窓生である多くの後輩のために社会に役立てて、将来へ継承していくことが大切な義務であり、大変喜ばしく有意義なこととあります。

同窓会はその大学と表裏一体の密接な関係にあり、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与し、社会に貢献することを目的として、相互の連携が産学交流、研究、就職支援など物心両面の繋がりを持つ団体となることができるよう努力していきたいと存じます。

会員の交流と連携をさらに深めその活動を進めて行きたいと考えます。各支部においての会員諸氏のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平田 達男  
Hirata Tatsuo

### 活動報告

統合同窓会「湖風会」が平成18年11月に誕生し、「湖風会 彦根工業会」はその一員として、五つの単位同窓会とともに活動を開始しました。

元、滋賀県立短期大学の工業部同窓会である「彦根工業会」は、会員数5100名を有する同窓会であり、今回の「湖風会」の統合を前に、これからの複雑な時代に即した若さと柔軟性をもった「活動する同窓会」づくりが必要であると考え、新しい執行部を発足しました。

これと同時に運営と活動の機能を施行させるため、三つの委員会を設け活動を開始しました。

#### (1) 会員情報委員会

会員名簿 会員情報管理

支部支援

#### (2) 広報委員会

広報・大学情報

ホームページ保守管理

#### (3) 総務委員会

運営企画 財務・総括管理

各委員会は活動を開始してから現在までその作業計画は一歩ずつ進めることができました。

何よりも大きな成果は工業部、建築、機械、化学、三学科会員の理解・協力・連携がより強固になったことが挙げられます。

「湖風会」が誕生した現在、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与できる同窓会としての課題は無数にあります。その組織の連携を生かしさらに活動を効果

的に展開できるよう思考を十分に進め作業を急がず、推進して行きたいと考えています。今後とも会員諸氏のご協力をお願いいたします。



旧工業部学舎

### 湖畔の会 会長挨拶

やつと同窓会の統合が出来ました。7年に亘る議論の末に本当にやつと出来たという思いがこみ上げてきます。

「湖畔の会」の歴史は、滋賀県立大学人間看護学部の前身である滋賀県立大学看護短期大学部、さらに昭和46年4月の滋賀県立短期大学看護部の開設にさかのぼります。当時二期生まで卒業をしていましたが、昭和49年11月に初総会を開き、我々の学舎を忘れることなく、また看護の心を忘れず共に学び深めあつていくために同窓会の必要性を痛感し、名称も、学舎が滋賀県の象徴である琵琶湖のほとりであることをいつまでも忘れることなく心の故郷になつてほしいという願いをいつまでも水鳥の飛び交う美しく澄んだ水面を持ち続ける琵琶湖であつてほしいとの願いを込めて「湖畔の会」と名付け発足しました。その後は独自の活動を進めてきましたが、今、ここに歴史と変遷を重ねた同じ学び舎を築き上げてきたすべての人がひとつとなる「湖風会」を立ち上げたことは同窓会の歴史に残る最大のことです。設立に関わつた役員一同今後同窓生の活躍への支援と母校の発展に向け力を注ぎたいと思います。



中川 富美江  
Nakagawa Tomie

### 活動報告

湖畔の会は昭和48年3月の滋賀県立短期大学看護部の第1期卒業生からスタートし、その後の医療、福祉、保健をめぐる大きな変化の中で、閉科、名称変更、閉学という看護教育の変遷はありましたが、平成19年3月に34期生の卒業生を迎え、会員数は1400名に達しています。また会員は、病院、地域、学校、会社、施設、看護教育などそれぞれの場で活躍しています。

湖畔の会は、本部役員と各クラス1、2名のクラス委員によりその活動を行っています。

主な活動内容は次のとおりです。

1. 総会  
5年に1回、7月の第1日曜日に開催しています。(平成17年には、滋賀県立大学看護短期大学部の閉学式典に合わせ実施しました。)
2. 名簿管理  
総会終了後の記念講演は、卒業後それぞれ現場で活躍している会員から、実践の中から看護の専門性、厳しさややりがいなどの話を聞きお互いに切磋琢磨していただきます。また、懇親会では年齢差を感じないほど和気あいあいとした雰囲気の中であつという間に閉会となります。
3. クラス委員を中心とした名簿管理をおこなっています。クラス委員のほとんどが現役で活躍しているということ、また結婚や転居等による移動が多い中その負担が大きくなっています。平成14年10月に最終の会員名簿を作成しています。

なお、名簿は個人情報問題があるため、クラス委員のみに配布しています。3. 卒業生への卒業記念品の贈呈  
統合同窓会が発足するまでは、毎年2月、3月上旬に湖畔の会の概要と終身会費の納入の説明をおこない、卒業式には役員が参列していました。また、湖畔の

会から、卒業を祝して記念品を贈呈していただきました。この度、各同窓会を統合し「湖風会」が誕生したことは大変意義あり、喜ばしいことです。一方、看護の役割、看護の専門性、人間愛に根ざした看護というつながりを持つ「湖畔の会」も大切にしていきたいと考えています。



旧看護部学舎

### 滋賀県立大学 会長挨拶

皆さん、お初にお目にかかります。先日開催された第5回滋賀県立大学同窓会総会にて、新しく会長に就任しました森雄史です。

この地に滋賀県立大学が開学してから12年が経ちました。私はまだ5年目ですが、滋賀県立大学のキャンパスを気の向くまま歩いてみれば、ここに吹く風が時々刻々と変わっていくのを感じることが出来ます。地域支援型のスチューデントファーム「近江楽座」における様々な活動、来年度に予定されている工学部の電子システム工学科の新設に環境科学部・人間文化学部の再編など、諸々の方向に活発な行動を展開しており、今まさに県大は発展途上といえるでしょう。

上記のような動きの中で、昨年、私たち滋賀県立大学の同窓会と滋賀県立大学の前身である短期大学の同窓会の統合が実現、新たに「湖風会」が発足しました。とはいってもその内実はまだまとまっておらず、実質的に機能するのはまだ時間がかかるかと思われまふ。「湖風

「会」が皆さんのために十分動けるように土台をしっかりと築き上げるのも滋賀県立大学同窓会の責務と考え、尽力する所存です。



森 雄史

Mori Yuushi

### 活動報告

平成18年度は、大学においては法人化、同窓会においては合同同窓会「湖風会」の設立と、まさに激動の年となりました。平成18年度、滋賀県立大学同窓会として、新規卒業生の名簿登録・住所変更事務「2500」第8号の発行、ホームページの更新など、従来どおりの活動を行ないました。さらに、同窓会合併協議に参加し、他の単位同窓会と協力しながら湖風会設立への準備を行いました。同年11月、湖風会に合せて「湖風会」設立総会を開催し、湖風会設立が承認され、ようやく合同同窓会として新たなスタートを切ることができました。湖風会設立以後も、活動や運営の充実や具体化を進めるべく協議を重ねている次第です。年度が替わりまして平成19年5月、年度を締めくくる第5回滋賀県立大学同窓会総会が行われ、会則の変更等が承認されました。さらに、森新会長を迎え、同窓会は新たなスタートを切りました。理事も交代で若返り(？)、活気に溢れています。

現在は湖風会のさらなる活動の充実を目指し、理事一同邁進しているところでございます。更なるサービスの向上、県立大学への貢献など、活動の幅を広げてまいりますので、今後とも会員の皆様の変わりぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

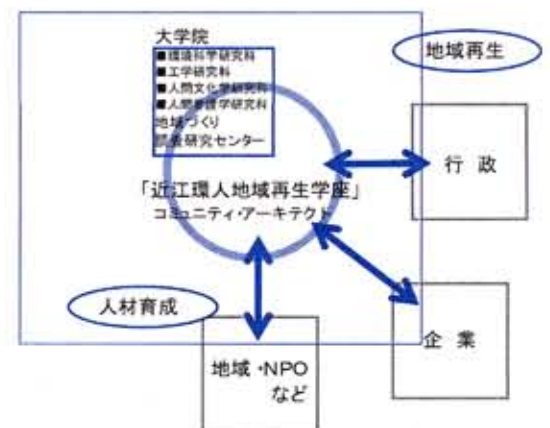
### 「近江環人地域再生学座」

滋賀県立大学では、平成18年10月より大学院研究科の学生及び社会人を対象に、「近江環人地域再生学座」を開設しました。この近江環人地域再生学座は、湖国近江の風土、歴史、文化を継承し、自然と共生した美しい居住環境、循環型地域社会を形成するために、地域診断からまちづくり(コミュニティ活性化、環境改善、市街地再生、地域文化育成等)への展開を総合的にオーガナイズできる人材「コミュニティ・アーキテクト(近江環人・おうみかんじん)」を育成し、地域のニーズに応えることを目的にしています。

「地域診断法特論」や「エコ・テクノロジー特論」といった講義や「コミュニティプロジェクト実習」などのユニークなプログラムを用意しています。所定のカリキュラムを修了し、検定試験に合格することによって「コミュニティ・アーキテクト(近江環人)」の称号が付与されます。滋賀県内はもとより全国各地で、行政、企業、NPOなどそれぞれの立場で地域再生のリーダーとなる資質を有した人材として活用していただくことを期待しています。



右上 平成19年度開校式  
左上 地域診断法特論・発表風景  
左下 コミュニティ・プロジェクト実習II



連絡先  
滋賀県立大学地域づくり調査研究センター  
住所：〒522-8533 彦根市八坂町2500  
TEL：0749-28-8612 FAX：0749-28-8567  
http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/gaku  
bu/in/ohaikankanjin/ohaikankanjin.htm

### 【湖風会】役員 所属表

単 位	役員名	役 務	学 科	卒 業 年	
				第 回	年 号
彦 根 工 業 会	種橋 清一	会 長	建築科	1	昭和 28
	平田 達男	副会長	"	11	" 38
	佐藤 東亜	男	"	12	" 39
	田中 他喜	男	機械科	18	" 45
	松下 欣市	男	"	12	" 39
	大森 哲夫	男	"	14	" 41
	篠田 守	会 計	化学科	15	" 42
農 業 部	東 富夫	副会長	農学科	1	昭和 28
	中 村久郎	男	"	2	" 29
	中 島 章	男	農経学科	4	" 31
	藤 本 健一	男	農学科	6	" 33
芹 翠 会	阿閉 良衛	副会長	文科	1	昭和 27
	伊 藤 幸	男	食物科	1	" 27
	大 辻 房枝	女	"	2	" 28
	藤 沢 史子	女	"	13	" 39
湖 畔 の 会	道 明 美保子	女	家政科	18	" 44
	中川 富美江	副会長	看護学科	1	昭和 48
	安 寺 久美子	女	"	2	" 49
	横 田 峰子	女	"	3	" 50
県 大 同 窓 会	五 坪 千恵子	女	"	6	" 53
	小 林 匡哉	副会長	環境生態学科	7	平成 17
	森 雄史*	男	生物資源管理学科	9	" 19
	大 塚 一紀	男	環境生態学科	8	" 18
	嶋 田 奈穂子	女	生活文化学科	8	" 18
	金 尾 滋史	男	生物資源管理学科	4	" 14
	平 山 奈央子	女	環境計画学科	7	" 17
中 尾 達郎	男	"	8	" 18	
合 計				27名	
湖 風 会 事 務 局	小 澤 重男	監 事	農業部	6	昭和 33
	広 川 八重子	女	芹翠会	17	" 43
	竹 内 順子	女	事務局員		

### 第13回湖風祭

今年で13回目を迎える湖風祭。11月の9、10、11日の3日間、11時〜20時まで開催されます。今年のサブタイトルは「Heart 13ear Festival」。学生と地域の両者が一緒に楽しめる祭を目指します。そのための学生手作りの企画の多さが湖風祭の大きな特徴です。ファッションショーなどが花をそえるメインステージ。音楽会による迫力のライブステージ。身近でできる環境対策を体験できる企画。これらの魅力ある企画に囲まれた中であなとも心躍らせてみませんか。



湖風祭実行委員会 会長 翠 勇樹

### 湖風会報 2500

滋賀県立大統合同窓会第1号  
2007年10月15日発行

発行所  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500  
滋賀県立大学 交流センター内湖風会  
湖風会事務局(竹内)  
Tel:0749-28-4400  
Fax:0749-28-4400  
発行責任者 種橋清一

### 事務局への問い合わせ

今後の湖風会会報は、総会開催の報告と併せて二年に一度発行する予定です。また、県立大学同窓会会報「2500」第9号は湖風会報第1号をもって変えさせていただきます。

なお、本会報は滋賀県立大学用：  
http://www.usp2500.com/  
においてご覧になることが出来ます。